

ABC検診【胃がんリスク検診】とは？

胃がんになりやすいか否かのリスクを調べる検査です
ABC（胃がんリスク）検診って何？

胃がんの原因のほとんどが**ピロリ菌感染**であることがわかっています。また、ピロリ菌感染の期間が長いと胃がんになりやすい**萎縮性胃炎**になります。

そこでピロリ菌感染の有無を調べる検査（便中のヘリコバクター・ピロリ菌抗原〈HP抗原〉を測定）と、萎縮性胃炎の有無を調べる検査（血液中のペプシノーゲン〈PG〉を測定）を組み合わせて、胃がんになりやすいか否かのリスク（危険度）をA群・B群・C群・D群に分類します。

A群（ピロリ菌感染なし）では、胃がんのリスクが低いので、数年に一度の胃内視鏡検査を実施。

B群やC群では、胃がんになるリスクがあるため、専門医による胃内視鏡精密検査を受ける。

というように、ABC検診は、胃がんのリスクを評価して、その後の胃がん検診の方法を決めることができる、胃がんリスク検診です。

なお、このABC検診は、あくまで**無症状の方が対象**で、**胃潰瘍などで治療中の方、胃切除後の方、腎不全（クレアチニン値3mg/dl以上）の方、ピロリ菌除菌後の方は検査の対象となりません。**

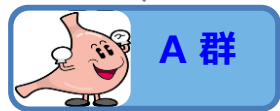
ピロリ菌とは？

幼少時に感染して胃に住みつき、慢性胃炎や萎縮性胃炎を引き起こします。また、胃がん、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、MALTリンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病など様々な病気の引き金になることが近年わかってきました。

便ピロリ菌抗原検査でわかったピロリ菌感染者は、除菌を行うことで将来の胃がんの発症を予防することができます。（当院の外来において、ピロリ菌の除菌治療を実施しています。治療実施に際し、今回の健診で内視鏡検査未実施の方には、治療実施前に外来で内視鏡検査をお受けいただくことがあります。）

血液検査・便検査（ABC検診）

ABC検診対象外



A 群

ピロリ菌感染(-)・PG(-)群



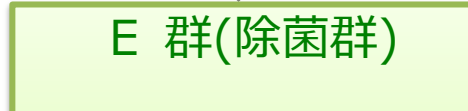
B 群

ピロリ菌感染(+)
PG(-)群



C・D 群

ピロリ菌感染(+)
PG(+)
ピロリ菌感染(-)
PG(+)
群



E 群(除菌群)

ピロリ菌除菌後の方は、E群として主治医とご相談のうえ、定期的に胃内視鏡検査を受診しましょう。

精密検査(内視鏡)

検診(内視鏡)間隔設定

5年に1回

2~3年に1回

1年に1回



- A群**：健康な胃粘膜・・・ピロリ菌検査、ペプシノーゲン検査ともに陰性で健康的な胃粘膜です。胃の病気になる危険性は低いと考えられますが、皆無ではありません。5年に一度程度の胃内視鏡検査をお勧めします。
- B群**：消化性潰瘍に留意・・・ピロリ菌検査陽性ですがペプシノーゲン検査陰性。消化性潰瘍などの胃疾患の危険性があります。胃がんが発生する可能性もあります。基本的には2~3年ごとの胃内視鏡検査をお勧めします。また、萎縮性胃炎にならないために、できる限り除菌治療を受けることをお勧めします。
- C群**：胃疾患の高危険群・・・ピロリ菌検査、ペプシノーゲン検査ともに陽性。萎縮性胃炎になっている胃粘膜で、胃がんなどの胃疾患になりやすい危険なタイプです。定期的な胃内視鏡検査による観察を行い、胃の病気の早期発見・早期治療に努めましょう。
- D群**：胃疾患の高危険群・・・ピロリ菌が胃に住めなくなり退却したためピロリ菌検査は陰性ですが、ペプシノーゲン検査が陽性で萎縮性胃炎が進んだ状態です。該当者が少ないためC群として扱います。